

第 26 回リバーフロント研究所研究発表会

企画グループ サブリーダー 渡邊 由美

平成 30 年 9 月 14 日 (金)、日本橋社会教育会館 (東京都中央区) にて「第 26 回リバーフロント研究所研究発表会」を開催しました。

本発表会は、当研究所の河川や湖沼、海岸などの水辺に関し、健全な水循環系の再生、災害に強靱な都市の形成、川を活かしたまちづくり、自然環境の保全と利用、河川生態の保全や再生、景観形成などに関する調査研究の成果を発表し、広く活用していただくことを目的に、年 1 回「リバーフロント研究所報告」の刊行にあわせて開催しています。今年は 26 回目の開催となり、国土交通省や自治体関係者、学識者、民間コンサルタントの関係者、ならびに当研究所の OB・OG 等、150 名あまりの方々にご参加いただき、活発な意見交換がなされました。

発表会には、東京大学 総長特別参与・サステナビリティ学連携研究機構の沖大幹教授をお招きし、「グローバルな水リスクと日本の国土」と題してご講演いただき、その後、昨年度当研究所で実施している研究成果から 7 題の発表を行いました。



沖教授のご講話

○発表内容

1. 乙川流域における上下流連携の促進

要旨：乙川のかわまちづくりが、上・下流域が連携する流域連携、行政と市民等による官民連携によって流域全体の活性化に資する「流域連携プラン」へと拡大することの可能性について検討。

2. 「経済」活動の場としての水辺の可能性を考える

要旨：平成 23 年の「河川敷地占用許可準則」に規定されながらも、より低い条件で事業者が活用できる「一時使用」や「一時占用」に着目し、占用との両輪で水辺のにぎわいや地域活性化につなげる方策の検討。

3. 関係者証言によるかわまちづくりのプロセスに関する考察

要旨：近年活動が盛んな 4 地区のキーパーソンや自治体等関係機関の担当部署を対象に行ったヒアリングで得られた証言をもとに、今後、他の地区でかわまちづくりを進めるにあたって参考になると考えられる留意点について検討。

4. 沿川地域のまちづくりの観点からみた高規格堤防整備方策

要旨：荒川、江戸川、淀川における高規格堤防整備事業実施箇所の関係住民の方々を対象に行ったインタビューをもとに、事業に対する意識変化、事業効果、事業中の出来事、事業における行政への要望等を抽出し、沿川地域のまちづくりの観点からみた高規格堤防整備方策の検討。

5. 河川水辺の国勢調査データを用いた生物と物理環境の関係の分析

要旨：河川環境の評価項目となる物理環境（環境要素）と生物の関係について分析を行い、仮説“環境要素が多様な場所では生物も多様であるか”の検討。

6. 環境 DNA 濃度による多摩川流域におけるアユの生息状況の把握

要旨：アユの河川生活期の生息範囲を明らかにするとともに、アユの生息密度の分布を把握。また、同様の手法で佐波川、高津川と比較した結果、今回得られた多摩川の環境 DNA 濃度が極めて高く、多摩川のアユ資源量が多いことの報告。

7. 河川を基軸とした生態系ネットワーク形成の推進に関する調査研究

要旨：大型水鳥類以外の指標種となりうる種を対象にポテンシャルマップの作成を通じて、ポテンシャルの高い箇所同士のネットワーク化や、ポテンシャルが低い箇所の改善等を通じて効果的・効率的に生態系ネットワークを形成するための検討。

今回の発表内容を含めた平成 29 年度の調査研究の成果「リバーフロント研究所報告 第 29 号」は、当研究所ホームページ「リバーフロント研究所報告」

(<http://www.rfc.or.jp/book3.html>) にてダウンロードが可能ですので、是非ご活用下さい。

公益財団法人リバーフロント研究所は、今後も河川に係る諸問題への調査研究等を通じて社会への貢献に取り組んでいきたいと考えております。



会場参加者との意見交換